

## 連携授業指導案 例 1

### 「土器や埴輪をつくろう」

#### 1. ねらい

- 歴史学習のはじまりにあたって、実際に各自が土からモノをつくることで関心・意欲を高める。
- 古代の人々の暮らしを制作を通じて実感し、生活上の知恵や工夫を学び取る。

#### 2. 成形の日の準備物

- ◆博物館： 土器、埴輪、模様の道具(貝殻・編み紐等)、P C、メジャー (50m OR 用)
- ◆学 校： プロジェクター&スクリーン、P C接続ケーブル、延長コード、テラコッタ粘土、荷造用ビニルテープ (崩れそうな部分の支え)、紙ひも (太さ 2mm 程度ものを 1m※縄をつくります)、作品を乾燥させるために仮置きしておくスペース
- ◆児童生徒： 構想図、ぬれ雑巾、水入れ、厚紙 (はがき大)、新聞紙、タオル  
よごれてもよい服装

#### 3. 成形の日の授業の流れ

校時	学習内容	児童生徒の学習活動	指導者の支援
1	全体学習 土器、埴輪について	○土器、埴輪について知る。 ○土器、埴輪の作り方について知る。	◇挨拶・講師紹介。 日程説明 ◇パワーポイントで土器、埴輪について、作り方で解説する。
			
2	教室に移動 土器・埴輪作り	○構想図をもとに、土器・埴輪づくりを行う。	◇各教室で指導を行う。
3			
4	作品乾燥	○完成した作品を仮置きスペースに運ぶ	

#### 4. 焼成の日の準備物

- ◆博物館： 竪穴住居キット、土器、石器、農具、貫頭衣、銅鐸、火おこしセット
- ◆学校： 薪、軍手、バケツ（消火用）、ティッシュ
- ◆児童生徒： よごれてもよい服装

#### 5. 焼成の日の授業の流れ（雨天時は延期）

時間	学習内容	児童生徒の学習活動	指導者の支援
9:00	全体学習 日程説明	○自分の土器を持って集合する。	◇挨拶・講師紹介 日程説明
9:10	焼成開始	○火おこしを見て、焼成されていく様子を観察する。	◇火おこしのデモンストレーションを行う。
			
10:00	古代体験	○3グループに分かれて活動する。  A－竪穴住居、農具、貫頭衣 B－土器、石器、銅鐸 C－焼成当番（半数は火おこし）	◇グループごとに指導。 40分ずつでローテーション。10分ずつの休憩を入れる。
			
12:20	焼成終了	○完成した作品を仮置きスペースに運ぶ。	
			

## 連携授業指導案 例2

### 「古代の生活を体験しよう」

#### 1. ねらい

- 歴史学習のはじまりにあたって、古代の人々の暮らしを制作や体験を通じて実感し、関心や意欲を高めるとともに生活上の知恵や工夫を学び取る。

#### 2. 準備物

- ◆博物館： 石器、土器、鳴らせる銅鐸、銅鐸（複製）、竪穴住居キット、農具、貫頭衣、火おこしセット、メジャー
- ◆学校： ティッシュ、ゴミ袋、バケツ（消火用水入り）
- ◆児童生徒： 動きやすい服装、水筒

#### 3. 授業の流れ ※勾玉づくりも可能（勾玉キットの購入をお願いします）。

校時	学習内容	児童生徒の学習活動	指導者の支援
1	全体学習 日程説明 道具について	○人類出現と道具の使用について知る。 	◇挨拶・講師紹介 日程説明 ◇既習事項と関連させて確認をする。  ◇グループごとに指導 30分程度でローテーションする。
2	グループ活動 A-竪穴住居、貫頭衣	○竪穴住居について知り、組み立てる。 	
3	B-土器、石器、銅鐸	○古代の道具について知り、触れる。 	
	火おこし体験	○火について知り、火をおこす。 	

## 連携授業指導案 例3

# 「国宝・桜ヶ丘銅鐸」

### 1. ねらい

- 神戸市内（灘区桜ヶ丘町）から出土した国宝桜ヶ丘銅鐸について知る。
- 資料をじっくり観察し、銅鐸に描かれている絵について考える。
- 銅鐸を通して弥生時代の人々の暮らしについて考える。

### 2. 準備物

- ◆博物館： 桜ヶ丘銅鐸（複製・復元）〔4号金1・緑4・5号金1・緑2〕、鋳型複製、PC、ワークシート（各自用、班用）、桜ヶ丘銅鐸のカラーコピー（各班2セット）
- ◆学校： プロジェクター&スクリーン または 大型TVモニター、延長コード、PC接続ケーブル、ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、マグネット（12～15個）、太サインペン6本（ポスカでも可）
- ◆児童生徒： 筆記用具

### 3. 授業の流れ

過程	時間	学習内容	児童生徒の学習活動	指導者の支援
導入	0	桜ヶ丘銅鐸の発見	○発見されたいきさつについて知る	◇パワーポイントで解説する。
展開	40	銅鐸の観察	○銅鐸を観察し、描かれている絵が何を表しているかワークシートに記入する。  ○各班絵を1つ選び、そのスケッチと、それが何であるかを発表用紙にまとめる。 ○自分たちのまとめを発表する。博物館の人に評価してもらい、解説を聞く。	◇弥生時代の生活を想像して、自由に考えさせる。  ◇それぞれが意見を発表し、多数の意見だけでなく、よく考えられた意見を取りあげるよう助言する。  ◇発表をすべて聞いた後、評価と補足説明
まとめ	45	絵に託した弥生時代の人々の願い	○弥生時代の人々がどんな思いで銅鐸に絵を描いたのか理解する  ○博物館の人の解説を聞く	◇弥生時代の人々の銅鐸に託した思いを理解させる

## 連携授業指導案 例4

# 「源平合戦図屏風から見える平家物語」

### 1. ねらい

- 資料をじっくり観察する楽しさを味わう。
- 源平合戦が古代の貴族政治から中世の武家政治への重要な節目となったことを理解する。
- 「平家物語」が国民文学として受け継がれていることを知る。

### 2. 準備物

- ◆博物館： 源平合戦図屏風（一の谷・屋島の戦い）、読み物資料増し刷り、源平合戦図屏風のカラーコピー（2人で1枚）
- ◆学校： 長机4台（2台直列で屏風1隻が乗ります）、ホワイトボード（または黒板）
- ◆児童生徒： 筆記用具、下敷き

### 3. 授業の流れ

過程	時間	学習内容	児童生徒の学習活動	指導者の支援
導入	0	屏風とは何か	○屏風について説明を聞く。 ○屏風に描かれている逆落としや敦盛の最期の場面を知る。	◇屏風・源平合戦・平家物語の基本的な解説をする。 ◇「坂落とし」・「敦盛最期」の場面解説をする。
展開	15	屏風から探そう （屋島合戦図） ①文章の読み取り A. 「嗣信最期」 B. 「那須与一」 C. 「弓流し」	○各班で文章を読み、どのような場面かをイメージする。 ○3つの場面のうち、1つの場面を各班で分担して考える。	◇屋島合戦図屏風にも代表的な場面が描かれていることを示唆する。
	20	②屏風の観察	○実際に屏風を観察し、その場面が描かれている部分を探すとともに、具体的な事物について確認する。	
	35	③発表と解説	○各班の代表者が順に、自分たちが見つけたことを発表する。	
まとめ	45	平家物語の国民文学性 	○まとめの話を聞く。	◇琵琶法師の語りによって一般庶民も楽しめた平家物語が国民文学として受け継がれてきたことを説明する。また、資料をじっくり観察することの大切さとおもしろさについてふれる。

## 連携授業指導案 例5

# 「はるかなる西洋との出会い」

### 1. ねらい

- 資料に触れ、観察することを通して、発見する楽しさ、気づく楽しさを味わう。
- キリスト教と南蛮貿易の密接な関係について理解する。
- 神戸市立博物館がザビエル像や南蛮屏風を所蔵している由来と、資料の保存について知る。

### 2. 準備物

- ◆博物館： 火縄銃（複製）、聖フランシスコ・ザビエル像（複製 額装）・屏風のカラーコピー、（2人で1枚）、南蛮屏風（複製 右隻・左隻）、PC、ワークシート
- ◆学校： スクリーン&プロジェクター または 大型TVモニター・延長コード PC接続ケーブル、長机4台（2台直列で、屏風1隻が乗ります）
- ◆児童生徒：教科書・筆記用具

### 3. 授業の流れ

過程	時間	学習内容	児童生徒の学習活動	指導者の支援
導入	0	神戸市立博物館とザビエル像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○火縄銃とキリスト教の伝来について知る。</li> <li>○ザビエル像を神戸市立博物館が所蔵している理由を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇既習事項と関連させながら確認する。</li> <li>◇神戸市立博物館が所蔵している経緯を池長孟氏と関連させて説明する。</li> </ul>
展開	20	南蛮屏風を観察  	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南蛮屏風に描かれた絵画を観察する。</li> <li>○屏風と作者について知る。</li> <li>○ワークシートに取り組む。</li> <li></li> <li>○観察したことについて発表し、それについての解説を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇屏風と狩野内膳についてふれる。</li> <li>◇10名程度ずつ、屏風で探させる。（他はカラーコピーで）</li> <li>◇キリスト教・南蛮貿易・日本人や南蛮人のようすについて説明する。</li> <li>◇南蛮貿易とキリスト教の布教が一体のものであったことについてふれる。</li> </ul>
まとめ	40  45	文化財の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南蛮屏風の素晴らしさと文化財の保護について知る。</li> <li>○左右並んだ屏風を観察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇狩野内膳の南蛮屏風の魅力や豊臣秀吉との関係について説明する。</li> <li>◇資料に触れたり、じっくり観察することの大切さとおもしろさについてふれる。</li> </ul>

**連携授業指導案 例 6**

**「伊能忠敬の日本地図」**

1. ねらい

- 幕末の社会的背景の中での伊能忠敬の人物像を知る。
- 作業を通して伊能図の正確さを体感し、昭和初期まで伊能図を基にした地図が使用されてきたことを理解する。
- 資料を観察し、気づいたことを自らの言葉で表現することができる。

2. 準備物

- ◆博物館：伊能小図（複製：西日本、北海道）、作業用地図（伊能図・現代地図）、PC小方儀
- ◆学校：プロジェクター&スクリーン または 大型TVモニター、延長コード、PC接続ケーブル、トレーシングペーパー（A4サイズ・1人1台）、長机5台+4台（伊能図がのります）
- ◆児童生徒：筆記用具、下敷き

3. 授業の流れ

過程	時間	学習内容	児童生徒の学習活動	指導者の支援
導入	0	伊能忠敬について	○伊能忠敬の人物像や測量をはじめた経緯、伊能図の種類などを学習する。	◇パワーポイントで伊能図を提示する。
展開	20	①伊能の地図と今の地図を比べてみよう！ 	○伊能小図の神戸周辺部拡大プリントを使用し、現在の地図と比較する。 ・拡大図にトレーシングペーパーを重ね合わせて海岸線を写し取る。 ・写し取った後、現代地図（コピー）を重ね合わせて比較する。 ・観察したことについて発表し、それについての解説を聞く。	◇写し取らせながら、地図から気づいたことがないか、考えさせる。 
	30	②伊能図の観察と詳細解説	○伊能小図を見ながら解説をきく。 	◇2種類の地図の特徴を解説する。 (天体の観測地点や海岸線の赤実線、空白部分などについて)
まとめ	40	伊能と伊能図のその後	○伊能と伊能図のその後について知る。 ・パワーポイントで解説をきく。	◇原本が焼失していることや写本が昭和期に入っても活用されていたことなどを説明する。
	45			

## 連携授業指導案 例7

# 「神戸から見る文明開化」

### 1. ねらい

- 地域に関係のある教材を積極的に活用し、身近な地域の歴史に対する興味関心を高める。
- さまざまな資料から、神戸が外国の文化を取り入れながら近代都市へと変容していく様子を考察する。

### 2. 準備物

- ◆ 博物館： 長谷川小信 画『開化錦絵』（複製）、『開化錦絵』のコピー（児童数分）  
旧居留地設計図（複製）、鉄道レール（実物）、PC
- ◆ 学校： プロジェクター&スクリーン または 大型TVモニター、延長コード、  
PC接続ケーブル、ホワイトボード、ホワイトボードマーカー（または黒板、  
チョーク）、長机3台
- ◆ 児童生徒： 筆記用具

### 3. 授業の流れ

過程	時間	学習内容	児童生徒の学習活動	指導者の支援
導入	0	神戸のイメージ 開港と外国人居留地の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちが住んでいる神戸のイメージを発表する。</li> <li>○開港当時の神戸のようすを、当時の新聞から考察する。</li> <li>○神戸外国人居留地の形成について考え、地図で位置を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇港町神戸のイメージを膨らませる。</li> <li>◇開港と居留地の建設が外国文化を受け入れる背景となったことに気づかせる。</li> <li>◇現代の位置と繋がる様に解説する。</li> </ul>
展開	20	文明開化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループごとに『開化錦絵』を見て、外国からどのような文化や習慣、生活用具が取り入れられたのかを話し合う。</li> <li>○グループごとに発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇『開化錦絵』のコピーに印をつけるようにアドバイスする。</li> <li>◇発表を聞いて、補足説明をする。</li> <li>◇神戸に関係のある教材を活用することにより、身近な地域の歴史に対する興味・関心を高めさせる。</li> </ul>
	35			
まとめ	40			<ul style="list-style-type: none"> <li>◇鉄道開通に象徴される神戸の近代化について補足説明をする。</li> </ul>
	45	近代化を象徴する実物資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鉄道開通当時のレールを観察する。</li> <li>○代表者がレールを持ち上げ、その重さを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇さまざまな歴史資料から、神戸が外国の文化を取り入れながら近代都市へと変容していったことを理解させる。</li> </ul>

**連携授業指導案 例 8**

**「浮世絵入門」 (図工・美術向)**

1. ねらい

- 浮世絵が版画であることを知り、多色刷木版画を制作する意欲を高める。
- 多色刷木版画の技法と特徴を知る。

2. 準備物

- ◆ 博物館： 版木等印刷セット一式、浮世絵（実物）、PC、模写用ワークシート
- ◆ 学校： 版画和紙（10×15 cm ハガキ大）×2枚×児童数  
プロジェクター&スクリーン または 大型TVモニター、延長コード、PC接続ケーブル、水道が使える教室
- ◆ 児童生徒： 筆記用具・色鉛筆

3. 授業の流れ

過程	時間	学習内容	児童生徒の学習活動	指導者の動き
導入	0	浮世絵の鑑賞	<p>○浮世絵を鑑賞して、気づいたことや感じたことを伝え合う多様な作品を鑑賞する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 錦絵と肉筆画</li> <li>・ 美人画、役者絵、名所絵、おもちゃ絵、うちわ絵、だまし絵等</li> </ul> <p>○絵師、彫師、摺師の共同作業であることを理解する</p> 	<p>◇作品を見た印象と造形要素（色・形・構図）の関わりに注目させる</p> <p>◇庶民生活の中に浮世絵が深く関わっていることを解説する</p> <p>◇摺師・彫師の仕事を解説する</p>
展開	25	浮世絵の作り方	<p>○実際に摺る様子を見学しその過程を知る</p>	質問等に答える
	40	摺りの方法  多色版画摺り体験 浮世絵の模写	<p>○自分で二色二版の版画を摺る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 摺りの過程や方法を理解する</li> </ul>  	
まとめ	85  90	浮世絵が西洋に与えた影響	<p>○浮世絵と印象派等の関係を知る</p>	<p>◇ジャポニスムについて解説する</p>

**連携授業指導案 例 9**

**「水墨画に挑戦」 (図工・美術向)**

1. ねらい

- 鑑賞及び表現の活動を通して水墨画に興味・関心をもつ。
- 墨を使い、濃淡・余白を生かした表現ができる。

2. 準備物

- ◆博物館： 秋冬山水画の掛軸（複製）、各種水墨画用具・PC
- ◆学校： 児童の完成した篆刻印（消しゴム印）※必要であれば事前準備  
清書用紙【鳥の子紙か画仙紙（八つ切り）か水墨画用紙を1人2枚】  
墨の濃淡確認用紙（清書用紙と同じか半紙）、色画用紙（四つ切りを1人1枚）  
千代紙【清書用紙の長辺の長さ×20mmを1人2枚】、マグネット  
プロジェクター&スクリーン または 大型TVモニター、延長コード、朱肉  
PC接続ケーブル、水道が使える教室、のり、はさみ、新聞紙、トイレットペーパー
- ◆児童生徒： 習字道具（大筆、小筆、墨汁、文鎮、下敷き）  
筆拭きタオル、新聞紙、モチーフの野菜か果物（事前にスケッチしたものでも可）

3. 授業の流れ

過程	時間	学習内容	児童生徒の学習活動	指導者の動き
導入	0	水墨画表現の特徴を知る	○水墨画作品を見て、気づいたことや感じたことを伝え合う	◇作品を見た印象や表現方法に注目させる
展開	15	墨の濃淡のつくり方を知る	○描く準備をする ○三種類の濃淡の墨をつくり、試しの半紙に実際に描いて確認する	◇状況に応じて個別指導  ◇モチーフは実物を持ってくるか、事前にスケッチさせておく ◇描く際のヒントや心構えについて提案  ◇自分の名前を彫ったゴム印などを用意させておく
	20	毛筆を使い、濃淡・余白を生かした表現を工夫する	○和紙に描く	
		軸装について知る	○台紙に作品を貼り、一文字を付け、署名とともに押印して完成させる	
まとめ	85	水墨画について振り返る	○濃淡・余白の効果について、実際に描いてみて気づいたことや感想を発表する	

